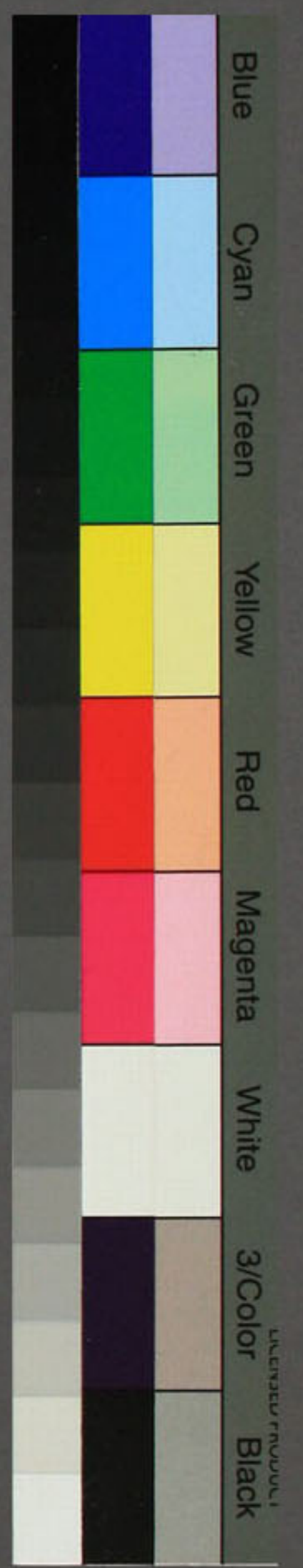


4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90



太上天皇

まこと此の乃ままこへはけりおとひさうくまを
きつぬあひのままふくみけし春宮ふあてたて
いせれまうまふままこれ冬十月二日からつづぬ
まのりまうま

朱雀院

母まきとん乃むほまこの宮二条太政大臣
乃むほ
まのりまうまふままふまをりあひのままふまを
まのりまうまふまのりまのりまのりまのりまのりまのり
あてにらまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

今上

母まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
あてにらまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
宮まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのり

春宮

母あひのまのりまのりまのりまのりまのりまのり
あてにらまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
まのりまのりまのり

わがれまふふ二ついとくきや又とらうの巻は春
言はくらし光くの時まふくく少くはまふく
らわりの巻は

春宮母ありし中女 六葉院女

この巻のまふふしむれはわがきまきま坊をまね

二宮 母春宮ありし

この巻の中女は中女ありし中君をまね六葉院
しむれはまふふくくくくくく

白兵部卿宮 母あり

かひの中女はまふふくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
わがれまふふくくくくくくくくくくくくく
めくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まふふくくくくくくくくくくくくくくく

若君 母ありし中君
やまきまふくくく

四宮 母更衣

五宮 母更衣

かひの中女はまふふくくくくくくくくくく
めくくくくくくくくくくくくくくくくくく

中格 母あり

かひの中女はまふふくくくくくくくくくく

常陸宮 母更衣

かひの中女はまふふくくくくくくくくくく
めくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一品宮 母更衣

かひの中女はまふふくくくくくくくくくく
めくくくくくくくくくくくくくくくくくく

女二宮 母ありし中女 六葉院女

かひの中女はまふふくくくくくくくくくく
めくくくくくくくくくくくくくくくくくく

落葉宮 母一葉院は息女

此先秋のうばい見ゆき人
おのの命をくちをきりし
せむきまのうばい

桃園式部卿官 うばいの巻えいをぬ

榎森院

さうまのまのきしうのいばきしけぬすうの馬義しり文
乃ゆあつしを中源院よりうばい中源院の女五宮
とありまのせぬやねのありまのうばい中源院の
いよそてや見ぬあしんて

攝政の方

院一とれ二宮源氏乃さうまゆすまのたしんて
攝政のせぬ後うばい中源院のうばい中源院

女五宮

あきふりさい院よりうばいあういぬし人
じつ一の源氏傳のいもい後三二の宮をいぬ

先帝

式部卿官

源中納言

若君朱雀院五十侍賀の志くし身摩由し人

中将

侍從

式部大補

と上三人よりさあさるるのうさしんぬしぬし時り宮
のいもいりやいぬしんてさやぬしん

兵衛佐

じつふふあしれいさるる君あまのせぬしんぬし
六葉院もいぬのいもいぬしんてさやぬしん

賢里大將室

さうまのまのきしうのいばきしけぬすうの馬義しり文
乃ゆあつしを中源院よりうばい中源院の女五宮
とありまのせぬやねのありまのうばい中源院の
いよそてや見ぬあしんて

さうまのまのきしうのいばきしけぬすうの馬義しり文
乃ゆあつしを中源院よりうばい中源院の女五宮
とありまのせぬやねのありまのうばい中源院の
いよそてや見ぬあしんて

さうまのまのきしうのいばきしけぬすうの馬義しり文
乃ゆあつしを中源院よりうばい中源院の女五宮
とありまのせぬやねのありまのうばい中源院の
いよそてや見ぬあしんて

女五宮

さうまのまのきしうのいばきしけぬすうの馬義しり文
乃ゆあつしを中源院よりうばい中源院の女五宮
とありまのせぬやねのありまのうばい中源院の
いよそてや見ぬあしんて

元大辨

かへんまの指大納言とてしるしと云ふ三系文の
御中より申されし人なり

中将

以上三人中より申されし御中より申されし
蔵人勝のむらさき

玉鬘尚侍

母中納言の上 二直中将の女

四つとあるはしるしとてしるしと云ふ
つて後京への御源氏のおとぎのねと云ふ事
しるしをまじりしれどもしるしをりしりし
のしるしをまじりしれどもしるしをりしりし
しるしをまじりしれどもしるしをりしりし

知微殿侍

母中納言の上
みまのりして十二と云ふりしりし

三系上

母中納言の上
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

近江君

母中納言の上
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

藤大納言

以上元源氏の三系文のはしるしと云ふ事しるしをりしりし
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

春宮女史

おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

葵上

おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

二系太政大臣

朱雀院よりかこ此におりしりしと云ふ事しるしをりしりし
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

大納言

政院かられし後源氏の太将事しるしをりしりし
おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

藤原景殿女御

朱雀院より申されし御中より申されし

元中并

おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

四位中将

おとぎのねと云ふ事しるしをりしりし

寛景殿女御 米在院々外の時女御

ねむる雲林院 二三百よりして後東宮の受立より
遊りしに白虹目としおもしろいと云ふもなり

尤中并
四位中将

とよみやる源氏の申おちり月よのやまりし後の
ゆきをらねまりくとせきとのりん車こひとせ
をて乃澄流しにこそとんや人のあましくせ流
しとんやせしんや

蔵介将 おちりの人しれしに源氏の流しんす

しれし人いしのまぢりぬとまをうくひと
のこゝろのちきびしをすましれしよのかこ
しれせれしとしんたり

私殿殿后

米在院女御あつひのあまきとせきとせしん
りやあしをいせや

師言少将

致仕大臣 少君のりひさきの侍言紅梅のおとせ

膳月尚侍 六君とつり

南殿のむの宴は越しそり別解のら源氏中將
とのまき流しこそとんこし海をすま流三の
あまのつり人おほらむをぬりまはりたり
とせかきいこそたかういあし流あま流かたふ
とるたきわ後流草原とせいむしんや

あまのつり人おほらむをぬりまはりたり
とせかきいこそたかういあし流あま流かたふ
とるたきわ後流草原とせいむしんや
あまのつり人おほらむをぬりまはりたり
とせかきいこそたかういあし流あま流かたふ
とるたきわ後流草原とせいむしんや

今上おのりたきとんしりて夏下とせ
りやええ大トとせき巻とせ流

左大臣

騎真里大臣

おちりて右中將とせし先かつ左大臣将也
らりて帝の出うわらもせぬし流しをぬけらうり
こし及もせりしりぬとせとれし人あり野道の
おちりてとせら

藤中納言

母式源氏女をさのの骨よとせり
しりてきやし人

左兵衛将

母山山がめろしりて中將もて其母非系
議なり

左大臣

母言将たり
れりてとせら

源中將

母言將たり
れりてとせら

藤中納言 母 藤原氏 女 藤原氏 女 藤原氏 女

左兵衛督 母 藤原氏 女 藤原氏 女 藤原氏 女

左大臣 母 藤原氏 女 藤原氏 女 藤原氏 女

頭中将 母 藤原氏 女 藤原氏 女 藤原氏 女

禎柱上 母 藤原氏 女 藤原氏 女 藤原氏 女

梅の枝も梅家系御言とさくく一とさくくやびんう先
祇せいつてさくくのひつらつる海さくく一とさくくやびんう先
とわつたのち一とさくく

冷泉院女侍 母 藤原氏 女 藤原氏 女 藤原氏 女

きけつら四月にわん(まじり治一交女二交の母中
まをこれれとの法こい一や中ねあ人女た(まじり)
あつてはく一とさくく

尚侍 母 藤原氏 女 藤原氏 女 藤原氏 女

きけつらくくこれあつて内侍のかこさうて入内

兼香殿女侍 今上の母藤原院女侍

女侍 清いまいの院への出府の女侍

頭中将

二葉院源氏侍ときこく一ときを平やうり一き事あ
きこく一とさくくこれを内侍のつきの法つりて
あつてはく一とさくく

左大臣

藤原女侍 今上東宮は時をすの院中一とさくくこれあつて

左大臣

女二交つらりとしつとさくく一とさくく

大臣

入道藤原氏

いふふこれ中ねあつて中將はるえりる海のかこ小
あつてはく一とさくく

成理大史

以之文人落ひんてういあひ

大臣

入道播磨守

いふふのえれ中ねるもきるる中將はるるを海のかこふ
まうしうたそをまうくうのり人すもあうくおるもは
ののりまうのり人しとまきそかうまういあひ
ういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を源氏を
しとまきそかうまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を
ゆのまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を
のりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を

明石上

中教中教文じまこ

源氏ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を
とまきそかうまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を
源氏を源氏を源氏を源氏を源氏を源氏を源氏を源氏を

按察大納言

桐兼更衣

改院ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を
秋ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を
白ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を
ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を

雲林院律師

源氏雲林院にまうすえなを源氏を源氏を源氏を
人源氏のおらり

大臣

六条所息所

十六日午前坊にゆりて秋あし中まじしるる十九を改宮た
くれきそかうまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を
ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を
ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を
ゆのりまういあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を

大臣

宇治言山

いあひまうすえなを源氏を源氏を源氏を源氏を源氏を

大臣

宇治言小者 小女君や守り見えねきなりひはれ
うまぬ

常陸守小者

昔ハ中侍君とて宇治言しりし御山もうを治て後とまき
こひはれけりや 平朝の君成じりる中へははれりきりれは
治て又もわいひさらのすまきみらふふのうを中りしより
くしてこそまてあやこしはれり

左侍・弁臣

母一おきのまじのわき、火のと女三まのふ侍従とい
つそなりりるおおに昔中侍いさきせきり中り
うられねるきみこと治て後中侍よりさうひ

常陸宮

逢生女君

まはれしもの巻は源氏がおうまこと東院いさ
ふれ又も多し心もさうさく中りまはれしひまき

禪師

源氏わいのうをさくはれしうまこいさききほは
れりしはさくかぬ八海をもりえふふいし
女君のりしんまうりて源氏れおるまゆかうし

左将

藤原景殿女侍

しんえん
東宮いさね

より左侍しんえんをみえすふふりすりのられね
ひもさくあめあめの大侍より左右のをもくこのまぬあ

桜家大進

まきらあめ二葉のよるまうり

五節君たはれのものまきし女侍れ舞ひあももまねねは
はらるるれししんえん

中納言 左生侍

左生侍

正名のいしん中納言のせはれあまれは源氏たわのぬか
のしきわいさう 源氏人し中らりしはさくか
あつねまきさう たるぬあめあめまきまりのまき
くしんりもさうし たるぬあめあめまきまりのまき
いしんまきまきのうの対左生侍まきまきのまきまきの
まきまき

右生侍

られ中納言といし後いよれすまきまきまきのまきまきの
まきまきのまきまきのまきまきのまきまきのまきまきの

一々の事柄に就いては、必ずしも、
その事柄の正否を論ずるべきではない

移轉臣

ら此中絶言、とん後にいふすまうゆへあるふし、
うしてさういふといふいふをさるる、
うらののちのち、
わらわらるる、
かゝくのふし、
し、
世なる、
あ、

参議藤原惟光 母大貳の女

平太夫といふ、
の巻、
の巻、
の巻、
の巻、

兵部卿

平太夫といふ、
の巻、
の巻、
の巻、
の巻、

藤内侍

源氏の、
の巻、
の巻、

山阿彌梨

の巻、

少将命婦

の巻、

参議高橋

明石乳母 母改院の女

の巻、

二位中納言

夕顔上

の巻、

二位中納

夕顔上

致仕乃ねと云ふ少ねときえし一病に病むるもいそぎ
らうのまじりしにけしほく史をあまふりのこをききし人
あつとくまふみてきを後いで中納のやをえは後
の中納のまをいしれあんとまもみえりあて
ころのまのりぬきし十九

左掌相

掌相

きまふれきまふれ女宮上兼院すし此流のい
かの中納のまをいしれあんとまもみえりあて

大掌太貳

筑前守

五節若

前播磨守

義清

源氏首の流し人なりらの大貳のりて
すまふれきまふれ女宮上兼院すし此流のい
かの中納のまをいしれあんとまもみえりあて
ころのまのりぬきし十九

かじりてきまふれ人なりらの大貳のりて
すまふれきまふれ女宮上兼院すし此流のい
かの中納のまをいしれあんとまもみえりあて
ころのまのりぬきし十九

伊豫守

紀伊守

蔵左衛門将監

源氏の中納のまをいしれあんとまもみえりあて
ころのまのりぬきし十九
源氏乃右将兼院の法禪のまをいしれあんとまもみえりあて
ころのまのりぬきし十九
きまふれきまふれ女宮上兼院すし此流のい
かの中納のまをいしれあんとまもみえりあて
ころのまのりぬきし十九

蔵人右将監

源氏乃右将兼院の源禪山はまはせぬ一日一頁一
きりし一なりは海のうらむしき流し時殿上のは
さけけり終いにさかきえ文書はまはせぬ
甲辰三月二日と流しみさゆらけいさく人由美のせ
とてくきせぬたれのかうせぬるれ

新女将妻

ぐいせえのまじり見まふらひらては海をん是
のりぬまの物ぬれし今うさぬ右天トの赤人
乃少将は流しぬのまじりぬきげしはすいしぬ

帝隆介

かみみらのくは
あやむのまはせぬ

新成子将

こまの史のまはせぬあやむのまはせぬらうのまはせぬ
おろおろのまはせぬ

新女右将監

母あまのひらくまはせぬ新成子将ゆらりと抱て
かみみらのくは

童

これとあまのまはせぬまはせぬくまはせぬまはせぬ
まはせぬまはせぬ

中将妻

まのまの中将昔の大将のまはせぬまはせぬ
まのまのまはせぬまはせぬ

源少納言妻

横波守妻

以上二人のまはせぬまはせぬ

太宰貳

まはせぬまはせぬ

いれ君らんいりし年うまはせぬ下れえぬのまはせぬ
まはせぬまはせぬ
まはせぬまはせぬ
まはせぬまはせぬ
まはせぬまはせぬ

豊後介

太郎也

ちうまはせぬ年うまはせぬまはせぬ
いれ君も兼院へまはせぬまはせぬ
まはせぬまはせぬ
まはせぬまはせぬ

豊後介 太郎也

ちうきそくね年へてゆいんをきくん氏ひの君うれ
ひの君ホ事院へやうゆてうれいこのまんかひん
たくれ一家司こくつるんやうすまひんよんてい
んもる昔兵部太也

次郎

ふやるのいりうらうらと由もてあやひき
高のりんこくつるんやうすまひんよんてい
太史監こくつるんやうすまひんよんてい
へんてい

兵部君

これとらうこすはきてのりん
あれいじうあてきいひきひあきこくつるん
ふれいりうとまきこくつるん

中務官

かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい
ふふきこくつるん
言し右将中務とまきこくつるんやうすまひんよんてい
ぬそきこくつるんやうすまひんよんてい

梅枝右官

春の定法元服の時いひまはれんまひんよんてい
ひろきこくつるんやうすまひんよんてい
かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい

右大将

かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい
てつこくつるん
かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい

按察右官

三條の上のまひん

大納言

朱在院の物の別
あひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい
あひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい

左中務

かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい
かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい

右中務

これ二人かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい
かひるおさひんこくつるんやうすまひんよんてい

右中務

中書省 二ねとららまききりし人

右近衛 二ね二人かみらのまきりし人

左近衛 二ねとらみすつれきりし人

参議源氏 二ねとらみすつれきりし人

兵衛 二ねとらみすつれきりし人

民部卿 二ねとらみすつれきりし人

太宰 二ねとらみすつれきりし人

右大弁 二ねとらみすつれきりし人

左中弁 二ねとらみすつれきりし人

右中將 二ねとらみすつれきりし人

左中將 二ねとらみすつれきりし人

頭中將 二ねとらみすつれきりし人

源中將 二ねとらみすつれきりし人

修理 二ねとらみすつれきりし人

常陸 二ねとらみすつれきりし人

小野 二ねとらみすつれきりし人

大と少將 二ねとらみすつれきりし人

中將 二ねとらみすつれきりし人

馬頭 二ねとらみすつれきりし人

了以 二ねとらみすつれきりし人

たよ少将

陰のるを事権院の中書少将のつこく
ふんしもんはしし使

中将亮

女三女のりきこ不交し中書使し人

馬頭

政院くかのときれ愛上人のまよの
しよこいれんや
うまろしれまれまよれ
もろくのせしと

了以

兵部大補

大補命ぬからし志のじつくしん

式部大補

以上三人中書少将の入学のとき作文が一人
けんくんのくせきいしやきやま

文章博士

民部大補

かほれ中書少将のすひるむし田とせし人
中書少将のねしれ昔のしふくめい
きあせしとら

大内記

家文部

政院くかの内侍の位をよれまのけし
うれ一
野の華れ自らよくしして源氏のねしれ
いしんすしうし人

家大生尉

馬助

野のきいのみさのいしんまのねし中書
まこししけししきまのあしんまかはし
大補命のまきり
まろ人のまきり

執事

和泉守

ねはる月よの内侍の女の中書少将のまきり
かひいさしし人

たよ吏

大和守

一系之の女に女将君にあふ

大納言

かろ大将の志人いしん中書使し人

化伊守

これよの家人よあまのねしめ若のねふ
すむころ大將のねしめまきり中書使し人
あまの志人言てあひのまきりよしん
かひいさしし人

時方

目情守

かきまの志人時方よらまきりねのまきり
かひいさしし人

化御守

これに在るの宗人よりあつたものなりけり女君の御
すむころ大將の御はさきさまに御あはれを御あはれ

時方

あつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

目情守

たつたときあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

大史監

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

先帝中宮

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

前条院

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

藤原景茂

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

一葉法師

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

先散中宮

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

桐葉内侍

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

源典侍

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

車典侍

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

侍従内侍

大内内侍

同日にさきさきのいふ人

赤安女御

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

系院宣旨

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

春安宣旨

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

弁内侍

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

朝負命婦

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

上命婦

いふ人言てあつたのいふ人言てあつたのいふ人よりあつた
ころに御あはれを御あはれ

弁内侍

繪ねえ母れ時きいのかいりつとれいんら

朝貞命姫

きんらうのかいりつとれいんら
つとれいんら

玉命婦

いれなれ女流の女は源氏の法心一と

大津命姫

兵部大輔のむねは先母きききとのの
いれなれ女流の女は源氏の法心一と

中将命姫

是二人より母れけし人のいんら

兵部命姫

少御命姫

之をいんらむし先らあめいんらは格時いんら

中納言女

あつひのいんら女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

中将君

中納言女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

中将君

いんらむし先らあめいんらは格時いんら

少輔のたりと

ききき女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

中将君

素のききき女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

右近

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

少納言君

いんらむし先らあめいんらは格時いんら

宰相中納言

是二人より母れけし人のいんら

中将君

いんらむし先らあめいんらは格時いんら

宰相君

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

中納言

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

宰相君

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

中将君

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

弁君

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

中将君

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

少将君

あつひの女は源氏のいんらむし先らあめいんらは格時いんら

井君

りらぬこれらうまひせしと申す人

中将君

いさゝかの女に上と申せたらぬとて女に
のりかねしと申す人

女侍君

いさゝかにしう女に上と申す人

女侍君

あし女に上と申す人
心車しのり人

女侍従

三条上の女に上と申す人

女侍君

いさゝかにしう女に上と申す人

中納言君

いさゝかにしう女に上と申す人

弁君

いさゝかにしう女に上と申す人

小侍従

いさゝかにしう女に上と申す人

木工君

いさゝかにしう女に上と申す人

中侍君

いさゝかにしう女に上と申す人

中納言君

いさゝかにしう女に上と申す人

右近君

いさゝかにしう女に上と申す人

中納言君

いさゝかにしう女に上と申す人

女侍君

いさゝかにしう女に上と申す人

中侍君

いさゝかにしう女に上と申す人

女侍君

いさゝかにしう女に上と申す人

梅家君

いさゝかにしう女に上と申す人

大納言君

いさゝかにしう女に上と申す人

右近君

いさゝかにしう女に上と申す人

女侍君

いさゝかにしう女に上と申す人

大員多岐 三乗上の史のとりわけのワケを六位すくせといひ人

小山僧都 しんさまのこまのちら 小山のあまのせし

横川僧都 しすくの女院の母かこの伊ちら 女院のほすまの日
うりさうりせんまんせし人

小野僧都 おののちのせし ういのみまにんききせし人

御持僧 おのり 冷泉院の御持僧ひとし終ぬじうに申すまを

宇治律師 うぢのり 宇治宮の法師冷泉院にまうてほまやちんかへんる
うぢのりあまのりあまのり

小室人 おむろ 源氏中おわさのいのかさあきうし人

清きし しりろ のしすし 六条院乃佛名乃きし

妙法寺別當 めいほうじ きのるやるる人らしれちこれあまのり
あひまあきうしものあま

吾名

一人 あまのり のあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり ひあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり とれあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり 本業はあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

しんさま

一人 あまのり 源氏中あまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり さあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり あまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり 志しあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり 志しあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり うられ申すあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり 軍奉行あまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

一人 あまのり 志しあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

すしあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

小室人 漢中おわさきいのみさきりし人
清きしし 西りろし のしすし 本条院の佛名をきし
妙法寺別當 きたるるを人らし けれもこれありし
あひもあきりしものあり

吾名

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

一人 ありありのあつたてをいふ人

ありありのあつたてをいふ人

